

試合運営確認事項

(主審クラスを受験する人は、以下確認事項を完璧に！)

1 ルールについての確認

・ ワンタッチについて

手のひらにあたってから、ボールデットゾーンいでた場合のみワンタッチ成立となる。手のひらにあたってから、直線的に身体の一部にあたってボールデットゾーンに出た場合はワンタッチにとらない。

・ ダブルタッチ

次の条件を満たしていればファールをとらない。

すぐ足下に置いた

両足とも一步も動かなかった

ボールの方向を変えなかった

以上のことを行なうと、ボールを置く時は、両手で床に置かなければファールの対象となる、

・ フォイッスルは、3種類。使い分けをしっかりと！

ピッ タイムイン アウト ジャンプボール

ピーッ ファール アウトオブバーンズ タイムの要求

ピッピーッ 試合終了

2 主審

・ よくみえる場所でジャッジを

ボールを追って動き、体を動きをとめてコール、ジェスチャーをする。

・ アウト・オブ・バーンズのジェスチャー

4人の線審の旗を確認してから行えるように、ゆとりを持って。

ワンタッチコールをする必要はない。ボールの支配権のみでよい！

・ ジャンプボール

高さ、方向、笛のタイミング、ゼッケンの確認

・ ヘッドアタック

主審は、監督と必ず確認。監督が他の選手に指示を与えないようにすることにもつながる。

当たた人にに対してヘッドアタックのコールとジェスチャー

当たられた人にに対してセーフのコールとジェスチャー

アウトコールをしてからタイムを要求した場合

3 副審

・ 副審の動き

センターラインを死守することが絶対。センターラインに戻れる範囲で、主審とセンターサークルの中心とした、点対称の動きをすることがベスト。

・ アウトオブバーンズ

主審と同じようなジェスチャー。主審のブライントサイドは、先にジェスチャーと笛をする。支配権が分かっている時は、主審より早く支配権のジェスチャーをする。

・ アウトの確認

アウトの発見。主審とアイコンタクト。主審が気がつかない場合、「ピッ、審アウト」

4 線審

・ ボールデット時

4人の線審全員が旗を挙げる。

・ ワンタッチ

コールと同時にジェスチャーし、主審の方に静態する。旗を下げるのは主審がコールしてから。

- ・ ノータッチ
ジェスチャーをし、主審の方に静態する。旗を下げるのは主審がコールしてから。
- ・ アウト
アウトを発見したら、直ちにオフィシャルタイムアウトを主審に要求するが、タイミングを考えて！「ピーッ、タイムお願いします。」旗を振りながら、コート中央まで全力疾走！
タイムを要求した時点でボールデットになることを、しっかり理解しておく。
タイムを要求した人の笛の鳴り始めが試合停止。空中にある場合は、投球者に戻して試合の再開。（審判テキストブック P10 参照）
- ・ 茨城方式の場合（偶数線審回り込み）
偶数線審がアウトを発見した場合
旗を持ってない方の手で、あたった選手を指す。
- ・ 線審がとれるファール
ラインに関するファールのみ
オーバーライン、アウトプレー、ホールディング、タッチ・ザ・ボディー、ダブルパス など
イリーガルスロー、キャッチの疑いがあるときや、その他のファールと疑わしき場合は、タイムを要求して協議をする。

5 記録

- ・ 主審のコール後の復唱
手を挙げてコール。スタンドから見ている人にも分かるようにする。
- ・ スコアカードの確認
試合開始前 チーム名、ゼッケンの色
試合終了時 スコアーを書く
試合終了後 両チームの監督からサインをもらう
勝ちチームに、負けチームに×、引き分け を書く
コートマスターにサインをもらう
主審からサインをもらう

6 計時

- ・ 試合開始のタイミング
主審の手からボールの離れた時点
タイムの後は、主審のタイムインの笛。
- ・ 試合終了時の有効球の確認（コートマスターだけに任せない）
試合終了は、タイマーの鳴り始め。鳴り始めとなるべく誤差を少なくするように笛を吹くとともに、ボールにも目を配る。

7 その他

- ・ 主審、副審、線審の連携（主審が試合をつくる）
アウトオブバーンズ
線審の旗を確認してから、主審、副審ともジェスチャー。笛を吹くのは主審。
アウトが発生しボールデットゾーンにボールが出た時
主審 アウトコール 「ピッ、 番アウト」
副審 アウトオブバーンズコール 「ピーッ」
主審 アウトオブバーンズコール 「ピーッ」「ボールの支配権を言う」
- ・ ファール発生後の説明
センターサークルよりもやや後方、選手全員を見わたせる場所で、選手全員に聞こえるような大きな声で説明をする。